平成２９年度東京都「生徒の学力向上を図るための調査」結果について（報告）

東京都が都内の公立中学校２年生全員を対象に、学習指導要領に示されている教科の目標や内容の実現状況、そして読み解く力に関する定着状況を把握し、「確かな学力」の定着と伸長を図るための調査を実施しました。その結果と分析（概要）について報告します。

実　施　日　　平成２９年　７月　６日（木）

１　生徒の学力向上を図るための調査内容

・これまでの学習内容（国語・社会・数学・理科・英語）がどの程度定着しているか測る。
⇒教科の観点ごとの正答率で示されています。

・各教科の「読み解く力」がどの程度定着しているかを測る。
⇒教科の読み解く力ごとの正答率で示されています。

・学習に関する意識調査として、生活や学習に関する意識や実態を測る。

２　読み解く力に関する定着状況を調査する背景

平成１５年度から平成２２年度までの調査結果から、東京都の生徒については、学力の定着状況については、おおむね良好であるが、「長い文章を読んで内容を把握すること」や「情報を整理して判断すること」について、課題があることがわかりました。特に、目的や条件に応じて情報を取り出すことや、複数の情報を相互に関連付け、その結果を活用して、問題を解決することに課題があることが明らかになりました。こうしたことから、その後「読み解く力」の育成を図るため、調査が実施されることになりました。

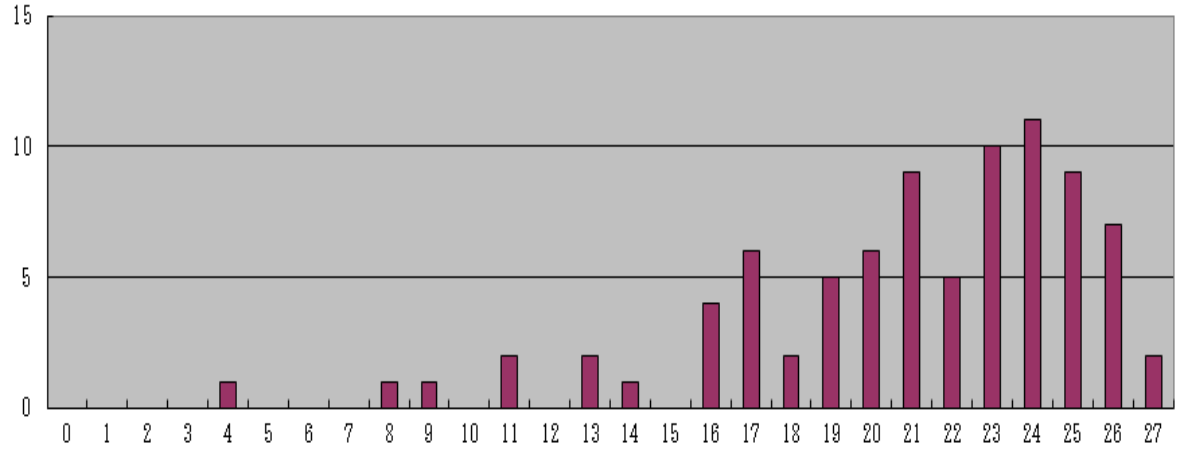
３　生徒の学力向上を図るための調査に関する調査結果概要

		教科の観点ごとの平均正答率（%）	教科の読み解く力の平均正答率（%）	全体平均正答率（%）
国語	東京都	７３．１	７２．４	７３．０
	本校	**７６．９**	**８０．１**	**７７．３**
社会	東京都	５６．６	５４．９	５６．２
	本校	**６３．１**	**５９．４**	**６２．２**
数学	東京都	６０．２	３５．３	５３．３
	本校	**６５．７**	**３７．９**	**５８．０**
理科	東京都	５７．２	５４．６	５６．６
	本校	**５８．７**	**５６．７**	**５８．３**
英語	東京都	６５．３	６３．７	６５．０
	本校	**７１．２**	**６９．２**	**７０．７**

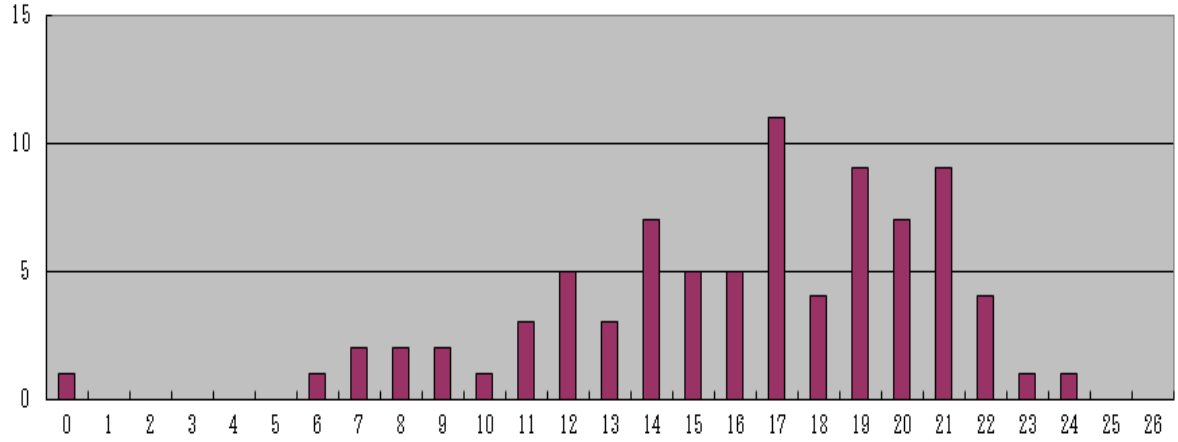
＊東京都のデータは速報値であり、抽出校のデータです。

4　合計正答数の人数分布（横軸：合計正答数　　縦軸：人数）

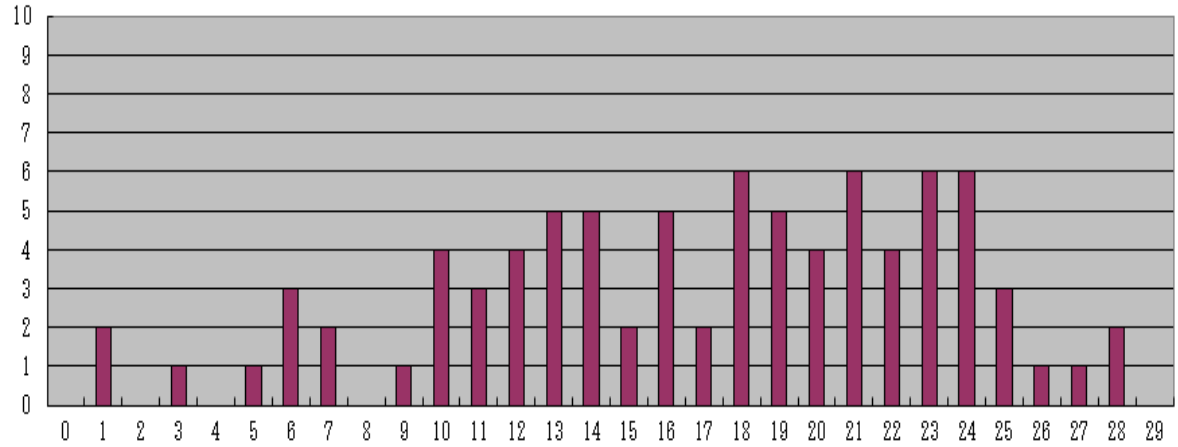
国　語



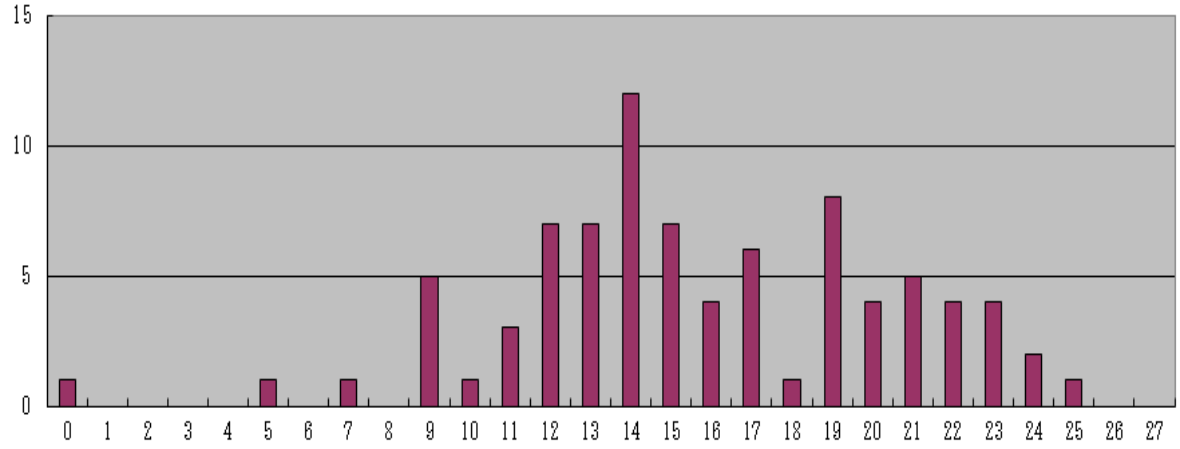
社　会



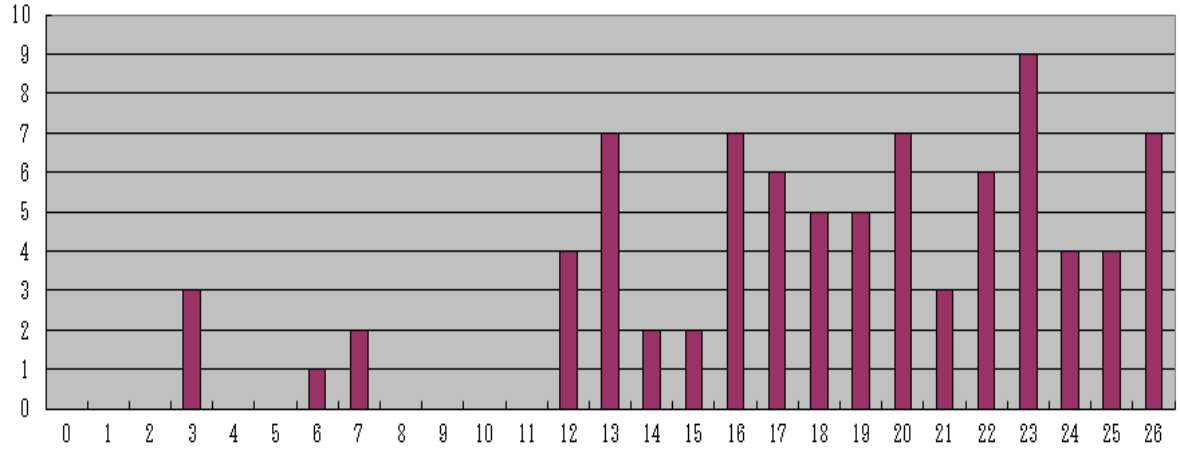
数　学



理　科



英　語



５　一中の第２学年生徒の調査結果の分析（概要）

今回の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」では、学習指導要領に示された目標や内容の実現状況を、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の４つの評価観点から調査しました（国語は５観点）。また、「読み解く力」の定着状況を、「必要な情報を正確に取り出す力」、「比較・関連付けて読みとる力」、「意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力」の３つの観点から調査しました。

（１）データから見る東京都の平均との比較

全ての教科で、全体平均正答率が東京都の平均よりも上回っています。どの教科も５ポイント近く高くなっています。

各教科の学習指導要領に示された目標や内容の実現状況では、全教科・ほとんどの観点において東京都の平均正答率を上回っています。平均より低かった観点も、ほぼ平均に近い結果になっています。

「読み解く力」の定着状況では、ほとんどの項目の平均が東京都の平均を上回っています。一方、東京都の平均より低かったのは、数学の「読み取る力」、理科「取り出す力」「読み取る力」がやや低い傾向にあります。

以下に、各教科の調査結果の分析で特徴的なものを示します。

教　科	学習要領に示された 目標や内容の実現状況	「読み解く力」の定着状況
国語	「書く」「言語」「読む」の正答率は東京都の平均よりも高いが、平均より低かった「関心・意欲・態度」「話す・聞く」の正答率の幅は１％以内である。	「読み取る力」「解決する力」は、東京都の平均より高いが、大きな差がない。一方、「取り出す力」は、東京都の平均より 10%上回り高い水準にある。
社会	各観点で東京都の平均を上回っている。「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「知識・理解」は東京都の平均と比べて高いが、一方で「技能」の観点の平均は低い。	「取り出す力」「読み取る力」は、東京都の平均より高いが、大きな差がない。一方、「解決する力」は、東京都の平均より 16%上回り高い水準にある。
数学	各観点においても、東京都の平均に比べて高いが、大きな差がない。今後も、習熟度別授業のよさを生かし、各観点の能力を高めていきたい。	「取り出す力」「解決する力」は、東京都の平均より高いが、「読み取る力」は平均より低い。
理科	「関心・意欲・態度」「知識・理解」は東京都の平均と比べて低いが、0.3%と0.8%と平均にほぼ近い。一方で「思考・判断・表現」「技能」は平均を上回った。特に「技能」は 90.5%で平均を 16%上回り、高い水準にある。実験に取り組んできた成果である。	「取り出す力」「読み取る力」が東京都の平均より低い。「解決する力」は平均より 10%上回り高い水準にある。
英語	「外国語の表現」「外国語理解」「知識理解」は東京都の平均より高い。一方で、「関心・意欲・態度」が平均に比べて低い。少人数授業のよさを生かし高めていきたい。	「取り出す力」「読み取る力」「解決する力」の全てにおいて、東京都の平均を上回った。特に「解決する力」が高い水準にある。

（２）合計正答数の人数分布から見る分析

国語と英語では正答数分布の状況がかなり高い正答数側に分布しています。しかし、東京都の平均正答率もかなり高いことから、学力が比較的高い生徒に対しての課題を分析することが今後の課題になります。

数学と社会でも正答数の人数分布は高い正答数側に分布していますが、数学ではややばらつきが大きくなっています。今後も習熟度別の少人数授業や学習支援教室を活用した個別指導を充実させていきます。

理科では正答数分布のばらつきが他教科と比較して大きくなっています。また、全教科において、無解答やほぼ無解答に近い生徒に対しても、個に応じた指導の充実を図りながら、今後も生徒の学力向上を図るための意図的、計画的な学習活動を充実させます。

以上が、本校第２学年生徒の「学力向上を図るための調査」の結果を分析した概要です。今回の調査結果をもとに、各教科の成果と課題を学習指導に活かし、さらなる学力向上に努めます。